

# 第3回 防府市地域公共交通活性化協議会 議事録

## ■開催日時・場所

令和5年5月9日（火）午後2時から午後3時30分まで  
防府市役所 議会棟3階 全員協議会室

## ■次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介
4. 会長・副会長の選任
  
5. 会長挨拶
  
6. 議事
  - ・協議事項
    - （1）公共交通の利用状況の整理・分析
    - （2）公共交通の役割と課題について
  
7. 閉会

## ■配付資料

	資料名
1	第3回防府市地域公共交通活性化協議会 次第
2	資料1 公共交通の役割と課題
3	資料2 課題と対応方針
4	防府市地域公共交通活性化協議会 委員名簿
5	席次表

■出席者名簿 敬称略・順不同

	区分	所属団体・役職	名前	出欠
委員	学識経験者	徳山工業高等専門学校 土木建築工学科准教授	目山 直樹	出席
	地域公共交通の利用者等	防府市自治会連合会	権代 祥一	出席
		防府市老人クラブ連合会 理事	湯原 温茂	出席
		防府市障害福祉団体連合会 会長	中村 信也	出席
		市民代表	東福 俊明	出席
	公共交通事業者等	防長交通(株) 乗合営業部長	河合 貴志	出席
		中国ジェイアールバス(株) 生活交通活性化推進室長	河内 政好	出席
		西日本旅客鉄道(株)山口支社 防府駅長	金田 善次	欠席
		(有)野島海運 取締役	阿部 幸典	欠席
		(一社)山口県タクシー協会 副会長	大隅 洋三 (代理：重舂 伸)	出席
		山口県交通運輸産業労働組合協議会 (私鉄中国地方労働組合防長交通支部防府分会 副分会長)	中村 圭吾	出席
	道路管理者 港湾管理者	中国地方整備局山口河川国道事務所 交通対策課長	三浦 道人	欠席
		山口県防府土木建築事務所 維持管理第一課長	山田 成仁	出席
		山口県防府港務所 主査	藤井 健二	欠席
	警察	防府警察署 交通課長	上野 伸哉	出席
	関係機関	中国運輸局山口運輸支局 首席運輸企画専門官	館 昭憲 (代理：蔦 真)	出席
		山口県観光スポーツ文化部 交通政策課長	渡邊 昭博	出席
	計画作成市	防府市 総合政策部長	永松 勉	出席
事務局		総合政策部次長	伊藤 忍	
		総合政策部 参与	熊野 博之	
		総合政策部政策推進課 課長	磯邊 範子	
		総合政策部地域振興課 課長	岡田 由紀江	
		総合政策部政策推進課 課長補佐	末富 真一郎	
		総合政策部政策推進課交通政策係 係長	國貞 裕司	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任	渡邊 彩絵	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任	江山 雄一郎	

## ■議事録

### 1. 開 会

---

### 2. 挨拶

---

計画の作成自治体として、永松総合政策部長あいさつ

### 3. 委員紹介

---

委員紹介

### 4. 会長・副会長の選任

---

会長は、防府市地域公共交通活性化協議会設置要綱第4条第1項に基づき、委員による互選の結果、目山委員が会長に選任。副会長は、同要綱第4条第1項に基づき、会長が永松委員を指名。

### 5. 会長挨拶

---

まちづくりにおいて、公共交通をどうするかは非常に重要な課題である。また公共交通を維持していくことが非常に難しい時代に入ってきている。

その中で、利用者の立場、事業者の立場、公共交通政策担当行政の立場など、いろいろな方たちが知恵を出し合う場がこの協議会であり、実際に事業者の選定に至るまでもやることのある、非常に重要な協議会として認識している。

事務局とのやりとりも通じて、防府市の公共交通が発展することを願う。また二年間よろしくお願ひしたい。

### 6. 議 事

---

会長から会議の公開について確認後、議事を進行。

#### 協議事項（1） 公共交通の利用状況の整理・分析

---

#### 協議事項（2） 公共交通の役割と課題について

---

事務局から資料1及び2について説明。

目山会長 委員の皆様には、これからそれぞれの立場で、資料1の37ページ目までの公共交通に関するデータの部分と、資料1の38ページ以降及び資料2の課題や対応方針の二つに分けて、お気づきの点やご意見等を伺いたい。ここで出た議論が、公共交通計画の骨格になる大変重要な会議であるので、忌憚のないご意見をいただきたい。

対応方針について10個の課題が上がっているが、その中では背反する問題も出てくる。財政の適正化などをいうと、何もできなくなる。この10個の中で重点的なものは何なのか、というところが浮き彫りにならないと、次の段階に進めな

いと思う。利用者、事業者、監督官庁のそれぞれの立場から、ご意見を伺いたい。

- A 委員 運転手不足が言われる中で、自動運転の検討はされているのか。
- B 委員 運転手不足解消の一つとして今後考える必要はあるが、今の段階では技術的にも法的にも、また費用的にも、導入できる段階にはない。
- 目山会長 この資料にあるデータはとても衝撃的ではあるが、これが事実である。防府の子どもたちはバスに乗っていないことがこの資料から分かる。だが、公共交通を維持していくためには、乗せていかなければならない。
- C 委員 高齢者等バス・タクシー運賃助成制度について。助成券を1枚も使用しなかった人がバス専用券で約15%、バス・タクシー共通券で約20%いるが、この理由を事務局は把握しているか。もらったけれど使わなかっただけなのか、高齢すぎて外出が難しく使えなかったのか、など。
- 事務局 高齢で使えなかった、というわけではなく、基本的には家族の送迎があり、どうしても家族の協力を得られないときのためにつくっていたが、結果的に使わなかった、というのが主な理由だと推測する。
- C 委員 高齢者等バス・タクシー運賃助成制度について。今の時代は65歳以上でも働く人も多くいることを考えると、65歳から助成事業の対象となるのは早すぎるのではないか。
- 目山会長 これはご意見として承る。
- D 委員 高齢者等バス・タクシー運賃助成制度について。障害者や高齢者は、バス停まで行くことが難しいこと、また移動したいときにバスが来るわけではない、という時間的な問題を考慮すると、タクシーの利用が多くなる。予算的な問題もあると思うが、この助成制度をもっと充実していくことも一つの方法ではないか。バスの運行計画の見直しなどで利用促進を、ということは今までずっとやってきたと思うが、同じことをやっても利用率は上がっていかないのではないか。
- 目山会長 貴重なご意見をいただいた。今までと同じことやっても利用率は上がらないので、次の計画の中にそのあたりを活かしてほしいというご意見だった。前段のところはとりあえず終わって、次に進みたい。本日は資料2について、「こういう組み立てで進めてもよいか」ということが気になるところである。私はこの部分について、行政の施策として取捨選択する視

点が少なく、この組み立ての中で濃淡が見えない、10個の課題の中で一番重視しているのがどれかわからない、という点が問題だと思う。

「高齢者に」「障害者に」優しい、という点と絞り込めるが、「誰もが」利用しやすいということ、途端に難しくなる。「誰もが」というのは公共交通の宿命であり必要だが、防府の公共交通計画ではどこに力点を置くのか、そのために利用者や事業者にはどのように関わってもらえるのか、というのがとても大切である。であるので、この10個の中で、これを重視してほしいというものがあれば、利用者からも事業者からも申し述べてほしい。公共交通計画を立てる側からすると、この場での委員の意見を聞きながら、この10個の濃淡をつけていきたいところである。

E委員 重要なのは、担い手の確保、乗務員の確保であると考えている。車両が有人で走っている限りはずっと残る課題であるし、身体の不自由な方が公共交通を利用する際には、どれだけ自動運転などが普及しても人のサポートが必要となるだろうことを考えると、担い手の確保をやっていくべきと思う。  
山口市では、出勤時間帯の相乗りタクシーの事業もある。少ない担い手の中で、AIなどを利用した効率の良い運行なども検討してもよいのではないかと。

目山会長 行政の各担当の方でも知恵や事例などがあれば、この中で情報共有していただければと思う。

F委員 担い手の確保について。先日、山口県主催の就職フェアにおいて、公共交通担い手ミニフェアを実施した。こういった事業を今後も各地で行うとよいと考える。

目山会長 「対応方針」と書いてあるところで気になることがある。  
「誰もが」を「誰もが」のままやってしまうと、ターゲットが決まらないので、その政策に展開しにくい。「誰もが」の中に構成員がいて、ある時は障害者、ある時は高校生、ある時は高齢者といったターゲットごとに課題が違う、ということをお話したい。  
例えばデマンドタクシーの担い手がないからといって、担い手のところをどう振り返るかで、今度は事業がデマンドタクシーではなくなっていくかもしれない。地域の中で相乗りをしていくなどの展開もあるかもしれない。そういった提案が出てくるのであれば、それも展開の一つだと思う。  
話がしにくい部署の方もいるし、一般論で話せるところとそうでないところもあり、また今日来られていない委員もいるので、今日のところはあと2、3人ご意見をいただいた上で今日は進めたい。

G委員 これから団塊の世代も高齢者に入り、その人数も増えることを考えると、バス・

タクシーが大切になってくると思う。

H委員 計画策定にあたっては、交通弱者、特に高齢者への集中的な取組を希望する。岩国市が特に手厚い補助をしている。結果として岩国市は昨年死亡事故ゼロとなっている。お金のかかる話ではあるが、ぜひ検討いただきたい。

目山会長 交通安全基本計画の最新のものの中でも、「高齢者と子ども」、「自転車と歩行者」といったように、六つの「対策の視点」のうち、二つは世代に対しての手当になっている。地域公共交通計画を立てる段階で、そのあたりのところにもプラスになるから、公共交通利用促進に繋げよう、という話にならないといけないと思う。そういう意味での援護射撃のようなご意見をいただいた。

D委員 計画策定にあたっては、交通弱者への交通手段の確保を柱にしてほしい。交通弱者を中心として、そこを担保することによって、障害者としても、また一市民としても住みやすい防府市になるのではないかと考える。

目山会長 たくさんの意見をいただき感謝する。  
今いただいた意見は、事業者からは、担い手の確保をぜひとも検討して欲しいとのこと。公共交通の利用者という立場からは、交通弱者、あるいは高齢者への手当をして欲しいとのこと。それから行政からは、高齢者の死亡事故ゼロの岩国市の例のように、他自治体の施策も調査した上で、防府市でもやれる高齢者の死亡事故ゼロに繋がるような動きをやらしてもらえないか、という話であった。  
やはりターゲットごとに結論や答えを導き出すような検討を、次の段階ですていただくのが一つの筋なのかなと思う。「誰もが」というところが「誰もが」のままでは答えが出にくいので、それぞれの施策段階について、ターゲットごとにどのような効果を狙う、というような対応方針で進んでいただけたらと思う。

## 7. 閉 会

---

次回の会議は10月を予定。次回は地域公共交通計画の計画案を示し、それに対して意見をいただく予定。